

項 目	2 デジタルを活用した県づくりについて (4) 将来を見据えた3次元点群データの活用
答弁者	知事
質問要旨	<p>本県が提供している代表的なオープンデータに3次元点群データがある。</p> <p>データの活躍が最も知られたのは昨年7月の熱海市土石流災害の被害想定であり、被災直後に民間企業によって取得されたデータと事前に取得済みであったデータ間で比較・計算することによって短期間での被害想定を可能とした。</p> <p>3次元点群データの利活用は災害分野だけにはとどまらなく、デジタルデータの特徴は複製・加工が容易なことであることから、都市計画のようなものにも活用できる。仮に現実空間に建物を建築した際にどのような景観となるのか確かめることができることや、天候や人の移動データなどのデータを組み合わせれば、都市の賑わいについてシミュレートすることも可能である。</p> <p>このような現実空間の複製をデジタル空間上で再現し、様々なシミュレートに活用することをデジタルツインと言う。</p> <p>今後、3次元点群データによるデジタルツインを災害対策、都市計画や観光など様々な分野に広げることが本県において大きなメリットになると考えるが、将来を見据えた3次元点群データの活用について、県の取組状況を伺う。</p>

<答弁内容>

良知駿一議員にお答えいたします。デジタルを活用した県づくりについてのうち、将来を見据えた3次元点群データの活用についてであります。

コロナウイルス感染症の蔓延による生活様式の変容、ロシアのウクライナ侵攻による物流やサプライチェーンの変革など、社会を取り巻く環境が大きく変化する中、新たな価値を創造し、生活の質の高い社会を構築するには、DXの取組が必要不可欠であります。

県では、DXの取組の一環として、デジタルツインを構成する3次元点群データを、全国に先駆けオープンデータとして公開いたしました。それにより、台風15号の災害状況の把握や自動運転、バーチャルリアリティによる富士登山体験などの観光コンテンツの充実など、民間を中心に有効に活用されているところであります。

もちろん、議員ご指摘の熱海土石流の積み上げられた盛土の量を計測するのに、3次元点群データがオープンデータ化されてですね、活用されたのはご指摘のとおりであります。

一方、点群データの活用には、閲覧等に特定の専用ソフトが必要であり、加えて、データ変換の作業が求められるなど、一部の技術者や研究者に活用が限定されている状況にあります。このため、本年9月に、本県と同じく先駆的にデジタルツインの推

進に取り組んでいる東京都と協定を締結いたしまして、誰もが使いやすいプラットフォームを共同で構築することといたしました。

これにより、県内全域にわたり3次元点群データを逐次取得、蓄積し、災害対応や高精度地図の作成などに活用してきた実績を有する本県の強みと、国内外への発信力を持ち、都市空間をデータ化し、分析、シミュレーション能力に長けた東京都の強みが融合することにより、近い将来には、本県や東京都から革新的な技術やノウハウが生み出され、全国に広がることを期待しております。

例えば、人流や物流などの移動データを反映した未来のまちづくりや、巨大地震や風水害など広域災害に備えた計画づくりだけでなく、エネルギーの効率化や自然環境との共生、医療、教育、産業振興など、あらゆる分野でイノベーションが巻き起こり、地域の活性化につながるものと、議員ご指摘のとおり私も考えております。

県といたしましては、新たな価値の創出に大きな期待と役割を果たす3次元点群データの活用を更に加速し、産学官協働により、好事例を生み出すことで、デジタルツイン先進県として全国のロールモデルとなるよう、安全で安心な利便性の高い地域づくりに取り組んでまいります。

その他の御質問につきましては、副知事、関係部局長から御答弁申し上げます。